

令和4年度

事務事業評価シート

【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名
01	10	05	08	104550	文化財保護活用事業費
総合計画	分野	03	人づくり	政策	05 芸術文化の振興
	施策	03	文化財の保護と活用		
目的	市内の文化財を保護するため、文化財指定を行い適切な保存管理に努めるとともに、市民の文化財への関心を高めるため、文化財の紹介やセミナーを開催する。				
対象	市民、指定文化財(将来的に文化財として指定する価値があるものを含む)				
意図	文化財愛護の気持ちを育み、指定文化財の保護意識向上を図る。また魅力ある地域づくりのためにその周知を図る。				
事業概要	<p>○文化財の保護 22,442千円 文化財の調査と指定 市が所有する文化財の適切な管理運営 花輪堤ハナショウブ群落の調査と保存管理 文化財保存活用地域計画の作成 石鳩岡神楽・土沢神楽の映像記録作成 指定文化財所有者への管理指導や修理費の補助</p> <p>○文化財の活用 2,039千円 文化財の周知(文化財説明板の設置修繕、パンフレット作成) 市民向け講座の開催 文化財調査報告書・花巻市史料編の作成</p>				
市民参画の有無	対象外				
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	○補助・助成
活動指標		単位	区分	R03	R04
1	文化財調査の件数	件	計画	5.00	5.00
			実績	2.00	1.00
2	文化財セミナー、自然観察会の開催件数	件	計画	3.00	3.00
			実績	3.00	3.00
3	説明板や案内板等の設置・改修件数	件	計画	6.00	6.00
			実績	6.00	8.00
成果指標		単位	区分	R03	R04
1	この1年間に博物館等の市内の文化施設を訪れたり、文化財に関する講座・セミナー等に参加した市民の割合	%	目標	23.00	24.00
			実績	11.60	9.50
2	市内の文化財を6件以上知っている市民の割合	%	目標	50.00	50.00
			実績	20.10	21.10
3			目標		
			実績		
成果指標の達成度			目標値より高い		概ね目標値どおり
				○	目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析(成果指標を設定しない場合は、その理由を記載)		
<p>・令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、博物館等の文化施設の入館者数もコロナ禍前の状況に回復していないことから、訪れる市民の割合も大きく減少したものと考えられる。文化財に関する講座・セミナーについても、感染症対策のため参加定員を減らしていることも影響していると考えられる。</p> <p>・文化財の周知に関しては、市民向け講座や文化財説明板により周知を図っているが、新型コロナウイルス感染症の影響により、市民が文化財を学ぶ講座等や、自主的に見学する機会も減ったことから、市内文化財を6件以上知っている市民の割合が減少したものと考える。</p>		
目的妥当性	公共関与の妥当性	地域の少子高齢化や社会情勢の変化に伴い、市民共有の財産である文化財を保護・活用する環境は厳しさを増している。文化財は人と人とを結び付け、地域の活性化や魅力あるまちづくりに貢献するものとして、行政がその絆を取り持つ役割を担う。
	○ 妥当である	
	見直し余地がある	
有効性	成果の向上余地	地域と連携を図りながら、文化財説明板の設置・修繕等を継続的に行うことで文化財の現状を把握でき、適切な保存に結び付けることができる。また、文化財パンフレット等の効果的な活用により、さらに多くの市民の関心を引くことが期待される。
	○ 向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	文化財は地域のシンボルであり、教育や観光振興においても大きな価値を伴う。経費を削減した場合、文化財の適切な維持管理ができず、保存状態の悪化や散逸・滅失を招く恐れがある。また、地域の沈滞を招き、観光等に大きな損失となる。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
公平性	○ どちらも削減余地がない	
	受益と負担の適正化余地	適切な保護管理を行うことで、指定文化財が市民共有の財産としての価値を有する。所有者に対しては、管理や修繕に要する費用の一部を補助している。また所有者と連携を図りながら可能な限り公開・活用を図っている。
	受益機会の見直し余地がある	
総合評価	○ 適正である	
	今年度の振り返り	国指定天然記念物「花輪堤ハナショウブ群落」の保存活用計画作成にかかる調査事業の実施や、令和5年度の文化財保存活用地域計画の策定へ向けた計画書の作成、並びに指定文化財所有者への修理費の補助等により、文化財の適切な保護と保存管理やその活用が図られた。また、史跡を巡る市民向け講座の開催、文化財説明板の設置等により、文化財の活用と普及を推進した。
	次年度に向けて	国指定天然記念物「花輪堤ハナショウブ群落」については、事業実施の最終年度である令和5年度に、保存活用計画を策定し、その保護と有効な活用を図る。文化財保存活用地域計画についても令和5年度が事業最終年度であり、文化庁認定向け策定作業を進める。国選択無形民俗文化財「石鳩岡神楽・土沢神楽」映像記録作成事業は、新型コロナウイルス感染症の影響により収録等作業が遅れ令和5年度を最終年度として繰り延べており、不足分の収録と撮影記録の作成、配布等の活用を行う。

令和4年度

事務事業評価シート

【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
01	10	05	08	104570	埋蔵文化財保護活用事業費	
総合計画	分野	03	人づくり	政策	05 芸術文化の振興	
	施策	03	文化財の保護と活用			
目的	貴重な歴史財産である埋蔵文化財を適切に保護するため、遺跡の調査等を行うとともに、遺跡に対する市民の興味関心を高めるため、講演会を開催するなど埋蔵文化財の活用を図る。					
対象	遺跡					
意図	地域の歴史を知る貴重な歴史遺産である遺跡を守る。					
事業概要	<p>○埋蔵文化財の保護 24,506千円 埋蔵文化財保護のための遺跡情報周知と保護措置（発掘調査・工事立会等）の実施 埋蔵文化財の記録保存調査の実施、市内遺跡の分布状況調査 花巻城跡内容確認調査の実施 公有化遺跡の環境整備</p> <p>○埋蔵文化財の活用 5,083千円 埋蔵文化財・史跡等を活用した講座及び講演会・セミナーの開催 遺跡標柱の設置 総合文化財センターにおける埋蔵文化財資料の収蔵・展示 利活用に向けた資料の再整理及び展示・体験学習等の実施</p>					
市民参加の有無	対象外					
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託
活動指標		単位	区分	R03	R04	R05
1	埋蔵文化財保護制度を周知した回数	回	計画	3.00	3.00	
			実績	2.00	2.00	
2	各種講座・展示会等の開催	回	計画	6.00	5.00	
			実績	4.00	5.00	
3	遺跡標柱設置数	本	計画	5.00	5.00	
			実績	6.00	5.00	
成果指標		単位	区分	R03	R04	R05
1	保護された遺跡の件数	件	目標	80.00	80.00	
			実績	191.00	157.00	
2	埋蔵文化財関係講座等受講者数	人	目標	1,500.00	1,500.00	
			実績	749.00	729.00	
3			目標			
			実績			
成果指標の達成度		目標値より高い	概ね目標値どおり	○	目標値より低い	

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
<p>・開発により破壊が免れない遺跡について記録保存調査を行うなど埋蔵文化財保護を徹底するとともに、保護措置を受けずに開発が実施されないよう埋蔵文化財保護制度の周知を図った。その結果、目標を大きく上回る年間157件の遺跡保護数となった。</p> <p>・地域の歴史を知る上で貴重な財産である埋蔵文化財への関心を高めるため、市民を対象とした各種講座、企画展、体験学習を開催したが、新型コロナ感染症の影響により、前年度と同様に受講者数は目標を大きく下回った。</p>		
目的妥当性	公共関与の妥当性	埋蔵文化財は国や地域の文化の成り立ちを明らかにする上で欠くことのできない国民共有の財産であり、地域の資産でもある。その保護と活用に努めることは、地方公共団体の任務として文化財保護法に規定されており、市の主体的な実施が必要である。
	○ 妥当である	
	見直し余地がある	
有効性	成果の向上余地	岩手県教育委員会との連携による県内開発業者への周知徹底を図るほか、建設部等庁内関係部署との情報共有により、保護活動を向上させる。また、埋蔵文化財資料等を活用した講座等を開催することにより市民意識を一層向上させることができる。
	○ 向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	埋蔵文化財を正しく保護・活用するために、専門知識及び経験を有する職員の対応が必要であること、遺跡内での開発数は年度により増減することから、一定事業費及び人件費の確保が必要である。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
公平性	○ どちらも削減余地がない	
	受益と負担の適正化余地	埋蔵文化財の保護による受益は、記録保存された遺跡の調査成果等公開し、広く周知することにより、地域を知る財産として市民はもとより国民に及んでいることから公平である。
	受益機会の見直し余地がある	
総合評価	○ 適正である	
	今年度の振り返り	埋蔵文化財を保護・保存するため、保護制度の周知等を行うとともに、遺跡の発掘調査や工事立会等により埋蔵文化財の保存に努めた。企画展や講座等は、前年度と同様に新型コロナ感染症の影響により、参加者数は抑制傾向にあったものの、開催により市民等へ埋蔵文化財への興味関心を高めた。
	次年度に向けて	埋蔵文化財の保護・保存については、保護制度の周知に努めるとともに、必要に応じて発掘調査による記録保存を行う。企画展や講座等は、新型コロナ感染症の情勢に応じて必要な対策をとりながら、開催する。

令和4年度
事務事業評価シート 【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名		
01	10	05	09	104590	展示活動事業費		
総合計画	分野	03	人づくり	政策	05 芸術文化の振興		
	施策	03	文化財の保護と活用				
目的	市民の、花巻の歴史や文化に対する関心を高め知見を深めるため、展覧会を開催し、貴重な歴史的資料や美術作品等を紹介する。						
対象	市民						
意図	展覧会の開催により市民が普段目にすることがない歴史的資料や美術作品を紹介し、花巻の歴史や文化財への興味と関心を高める。						
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ○展示活動 7,791千円 <ul style="list-style-type: none"> ・特別展や学芸員の調査研究の成果を反映させたテーマ展等の展示業務 ○資料整理等 7,513千円 <ul style="list-style-type: none"> ・資料の保存管理にかかわる調査や整理業務 ○調査研究 460千円 <ul style="list-style-type: none"> ・展示等に活用するための調査研究業務 						
市民参画の有無	対象外						
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託	
活動指標			単位	区分	R03	R04	R05
1	展覧会回数	回	計画	6.00	5.00		
			実績	8.00	5.00		
2			計画				
			実績				
3			計画				
			実績				
成果指標			単位	区分	R03	R04	R05
1	博物館入館者数	人	目標	20,000.00	20,000.00		
			実績	12,100.00	12,129.00		
2			目標				
			実績				
3			目標				
			実績				
成果指標の達成度		目標値より高い		概ね目標値どおり		○ 目標値より低い	

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
特別展やテーマ展について、花巻の地域に関わる展示に重きをおいて実施した。新型コロナウイルス感染症拡大により、令和2年度の入館者数はだいぶ落ち込んだが、令和3年度には回復の兆しがみえた。しかし、今年度は新型コロナの影響が残ったためか横ばいとなった。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	花巻市の考古・歴史・美術工芸各分野の貴重な資料を収集及び保管すること、そして調査研究によって資料の歴史的な価値を明らかにし、公開等を行うことで、市民の教育、学術及び文化の振興に寄与することが博物館の役割である。
	○ 妥当である	
	見直し余地がある	
有効性	成果の向上余地	展覧会は、学芸員の調査研究活動が十分に反映されたものとし、市民の知的好奇心に訴える資料の選定を行い、開催趣旨に沿った内容の充実に努めている。
	○ 向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	展覧会にかかる費用の積算にあたっては、展示資料の安全確保と魅力を最大限に伝えるディスプレイを行うため、コストバランスを充分に考慮し、事業費、人件費とも精査して適切な経費の執行に努めている。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
公平性	○ どちらも削減余地がない	
	受益と負担の適正化余地	来館者に対しては周辺他館との共通入館券や、団体料金他各種割引料金を設定するなど、来館者の観覧事情や目的に配慮した価格設定としている。
	受益機会の見直し余地がある	
総合評価	○ 適正である	
	今年度の振り返り	特別展やテーマ展については、市民の知的好奇心にこたえる魅力ある展覧会を開催した。また、地域に根差した博物館として、考古、歴史、美術工芸各分野の調査研究を進め、先人の英知や郷土の歴史と文化を学習する場としての充実に努めた。
	次年度に向けて	市民がはなまきの歴史や文化に親しみ、知的好奇心に応える魅力ある展覧会を開催していく。また、さらなる学習意欲の向上や興味関心の呼び起こしに努め、理解を深める博物館講座等で学習の場を提供していく。さらに、考古、歴史、美術工芸各分野の調査研究を進め、先人の英知や郷土の歴史と文化を学習する場としての充実に努めることで、地域に根差した博物館を目指す。

令和4年度
事務事業評価シート 【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
01	10	05	09	104600	教育普及活動事業費	
総合計画	分野	03	人づくり	政策	05 芸術文化の振興	
	施策	03	文化財の保護と活用			
目的	市民の、花巻の歴史や文化への関心を高め、ふるさとを愛する心を育むため、各種講座や体験学習を開催する。また市内小中学校との総合的な学習や博物館を利用した学習活動を支援する。					
対象	市民、児童・生徒、教員					
意図	ふるさとの歴史や文化への興味と関心が深まり郷土を愛する心が養われる。					
事業概要	<input type="checkbox"/> 教育普及活動事業（2,140千円） <input checked="" type="checkbox"/> 体験学習・各種講座の開催 <input checked="" type="checkbox"/> 博物館と学校教育の連携による調査・研究					
市民参画の有無	対象外					
市民協働の形態	<input type="checkbox"/> 共催	<input type="checkbox"/> 実行委員会・協議会	<input type="checkbox"/> 事業協力・協定	<input type="checkbox"/> 後援・協賛	<input type="checkbox"/> 補助・助成	<input type="checkbox"/> 委託
活動指標		単位	区分	R03	R04	R05
1	講座回数	回	計画	40.00	40.00	
			実績	65.00	62.00	
2	体験学習開催回数	回	計画	9.00	9.00	
			実績	12.00	9.00	
3			計画			
			実績			
成果指標		単位	区分	R03	R04	R05
1	講座受講者数	人	目標	2,000.00	2,000.00	
			実績	3,191.00	2,248.00	
2	体験学習受講者数	人	目標	450.00	450.00	
			実績	207.00	152.00	
3			目標			
			実績			
成果指標の達成度	<input type="checkbox"/>	目標値より高い	<input type="checkbox"/>	概ね目標値どおり	<input type="checkbox"/>	目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
講座や見学の対応については、見学時の解説を二手に分ける等工夫を講じたことで、目標値を上回った。また、体験学習は密を避けるため定員を少なくしたことが、目標値の下回った原因である。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	博物館と小・中学校とが連携することで、郷土の歴史や文化に対する興味関心を高め、深い理解へと導くことで、地域を大切にすることを育む。
	<input type="checkbox"/> 妥当である	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	
有効性	成果の向上余地	博物館所蔵資料を念頭に、各種講座や体験学習において、受講者のニーズや時代に即応した内容を考えることで充実を図っている。
	<input type="checkbox"/> 向上余地がある	
	<input type="checkbox"/> 向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	講座・体験学習とも地域の文化に即した内容であり、専門的な知識や技術を有した人材が必要である。
	<input type="checkbox"/> 事業費の削減余地がある	
	<input type="checkbox"/> 人件費の削減余地がある	
公平性	受益と負担の適正化余地	講座・体験学習とも基本的に受講や参加に制限はなく、費用についても実費となる材料費のみの負担である。
	<input type="checkbox"/> 受益機会の見直し余地がある	
	<input type="checkbox"/> 費用負担の見直し余地がある	
総合評価	今年度の振り返り	講座や体験学習を通じて、花巻の歴史や文化の知識を深めながら、受講者自らが歴史の語り手となり文化の継承者として、積極的に活動できるよう支援した。博物館と小中学校との連携については、博物館でのワークシートを活用した見学や、実際に各校におもむき出前授業を行うなど、親しみのもてる歴史や文化の学習を提供した。出前授業のメニューの作成は、各校の担当教諭と連携を図りながら、市内小中学校共通で学べるものに加え、それぞれの地域特性をもちこんだ内容とすることで興味や関心を高めるように工夫した。
	次年度に向けて	講座や体験学習、博物館と小中学校の連携事業の開催にあたっては、ワークシート等を活用し、各校の担当教諭との連携を図りながら、各校共通で学べるものに加え、それぞれの地域特性を盛り込んだ内容とすることで、興味や関心を高めるようにしていく。また、博学連携の経験を活かした展示を行い、創作活動の場の提供等、積極的に取り組んでいきたい。さらに、出前講座や出前授業について、オンラインの活用を検討していく。

令和4年度
事務事業評価シート 【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名			
01	10	05	09	104990	市史編さん事業費			
総合計画	分野	03	人づくり	政策	05 芸術文化の振興			
	施策	03	文化財の保護と活用					
目的	旧市町史の発刊以降、花巻市として自治体史は未整備の状態であるため、市域全体の歴史を体系的に整理し、市史を編さんする。							
対象	市民							
意図	花巻市の歴史・文化遺産を総合的にまとめ、後世に受け継ぐべき資料を収集整理しながら、『花巻市史』の編さんを行う。							
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ○市史編さん事業 (2,868千円) ・市史編さん委員会の設置 ・編さん委員の選定 ・資料の収集と調査研究 							
市民参画の有無	対象外							
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託		
活動指標			単位	区分	R03	R04	R05	
1	『花巻市史』の刊行数			冊	計画		0.00	
					実績		0.00	
2	各専門部会の開催数			回	計画		3.00	
					実績		0.00	
3					計画			
					実績			
成果指標			単位	区分	R03	R04	R05	
1					目標			
					実績			
2					目標			
					実績			
3					目標			
					実績			
成果指標の達成度	-	目標値より高い	-	概ね目標値どおり	-	目標値より低い		

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
『花巻市史』を発行することが成果となるため、発行後に判断する。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	新花巻市としての自治体史は未整備の状態であり、旧4市町の自治体史編さんから約半世紀が経過し、その後の埋蔵文化財発掘調査や歴史資料・文献資料の調査などにより新たな史実の見直しが必要となり、それらを反映させた刊行物が求められる。
	○ 妥当である	
	見直し余地がある	
有効性	成果の向上余地	学芸員や執筆者の調査研究活動が十分に反映された『花巻市史』を発行していき、それぞれの分野の内容の充実に努める。
	○ 向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	『花巻市史』発行にあたっては、花巻市の歴史民俗にかかわる資料の散逸・途絶なども懸念される中、市の歴史や文化的遺産を総合的にまとめるため、事業費、人件費とも精査して適切な経費の執行に努める。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
公平性	○ どちらも削減余地がない	市民に対し、郷土の歴史や文化に触れる講座等を計画し、地域の興味関心を高める。
	受益と負担の適正化余地	
	受益機会の見直し余地がある	
総合評価	○ 適正である	今年度の振り返り 学識経験を有する者や識見を有する者等で構成する花巻市史編さん委員会を設置し、編さんの方針について協議を行ったほか、花巻の歴史資料や先人に関わる資料の収集、整理を行った。
	次年度に向けて	
	花巻市史編さん委員会を開催し基本となる方針案の策定と、調査研究や執筆に関わるための専門部会の設置について協議するほか、花巻の歴史資料や先人に関わる資料の収集、整理を行う。	